国が推奨する５つのがん検診について

胃がん検診

職場健診や病院で胃内視鏡検査をする機会がない
50歳以上の方→２年に１回

- □ 胃がんにかかる人は50歳代以降に多く、わが国のがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- □ 早期発見のために必ず2年に1度、繰り返し検診を受けてください。ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- □ 胃がん検診で「要精密検査」となった場合の検査は、胃内視鏡検査（口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査）です。

肺がん検診

職場健診や病院で胸のレントゲンを撮る機会がない**40歳以上の方→毎年**

- □ 肺がんは、わが国ではがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- □ 肺がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず毎年、繰り返し検診を受けてください。ただし、血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。

たばこを吸わない人に比べて、たばこを吸う人は日本人男性では約4倍、女性では約3倍肺がんになりやすく、喫煙を始めた年齢が若く、量が多いほどそのリスクが高くなります。受動喫煙（周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）も肺がんのリスクを2-3割程度高めてしまうので、禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

- □ 肺がん検診で「要精密検査」となった場合の検査は、ＣＴ検査もしくは気管支鏡検査（気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して直接観察する検査）などです。

大腸がん検診

職場健診や病院で便潜血検査または大腸内視鏡検査をする機会がない**40歳以上の方→毎年**

- □ 大腸がんは、わが国では罹患する人が増加しており、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- □ 早期発見のために必ず毎年、繰り返し検診を受けてください。ただし、血便、腹痛、便の性状や回数が変化した、などの症状が続く場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- □ 大腸がん検診で「要精密検査」となった場合の第一選択は、全大腸内視鏡検査（肛門から内視鏡を挿入して大腸を撮影し、がんやポリープがないか調べる検査）です。便潜血検査の再検は不適切です。一度陽性となったら必ず精密検査を受けてください。

→裏面もお読みください。

子宮頸がん検診

職場健診や病院で子宮頸がん検診を受ける機会が無い**20歳以上の女性→毎年**

□ 子宮頸がんは、わが国では女性がんの中で罹患する人が多く、特に30～50歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。

□ 早期発見のために必ず2年に1度、繰り返し検診を受けてください。ただし、月経以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は、次の検診を待たずに婦人科を受診してください。（鹿児島県は独自に毎年受診を勧めています。）

□ 子宮頸がん検診で「要精密検査」となった場合の検査は、コルポスコープ（膣拡大鏡）下の組織診・細胞診、ＨＰＶ検査などを組み合わせて行います。

乳がん検診

職場健診や病院でマンモグラフィ検査を受ける機会が無い**40歳以上の女性→２年に１回**

□ 乳がんは、わが国では女性のがんの中でも罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。

□ 早期発見のために必ず2年に1度、繰り返し検診を受けてください。ただし、しこり、乳房のひきつれ、乳首の湿疹やただれ、血性の液が出るなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに乳腺外来のある医療機関を受診してください。

□ 乳がん検診で「要精密検査」となった場合の検査は、マンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診・組織診（疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか診断する）などで、これらを組み合わせて行います。

※ 正しく検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。

※ 検診で「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査を受けてください。

※ がん検診は利益（がんで亡くなることを防ぐ）と、不利益（偽陰性：必ずがんをみつけられるわけではないことや偽陽性：がんでなくても結果が「要精密検査」となる場合もあること）があります。

※ 検診は西之表市と各検査機関が連携して行います。精密検査の結果は関係機関で共有されます。

【問い合わせ先】
西之表市保健センター すこやか　０９９７－２４－３２３３